

今回は快晴!



天気は快晴。それでも森の中は肌寒く、皆さん寒さ対策をしての散策です。カスミザクラ、ウワミズザクラの紅葉が見頃で落ち葉の風情を楽しみながら、沢ぞいの小径、そして頂上から中央コースを池へと巡りました。

花が見れた



リンドウ(竜胆)



リュウノウギク(竜腦菊)



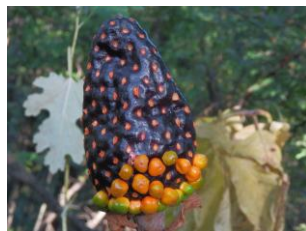
センブリ(千振)

アキノウナギツカミ (秋の鰻掴み)
イヌホウズキ(犬酸漿)
ヤクシソウ(薬師草)
センボンヤリ(千本槍)閉鎖花

観察した蝶 (馬場)

- ・キチョウ
- ・ヒョウモン類の♀ (産卵を終えたであろうボロボロの老チョウ達)

実を確認



マムシグサ(蝮草)



ツルウメモドキ(蔓梅擬)

アブラチャン(油漑青)
サワフタギ(沢蓋木)
クサギ(臭木)

ガマズミ(莢迷)
コバノガマズミ(小葉莢迷)
ミヤマガマズミ(深山莢迷)
オトコヨウゾメ(男嫁蔵)

オオムラサキ物語 続編 (井村)

オオムラサキの卵を見つけたエゾエノキの葉に幼虫を捜しましたが、残念ながら見つかりませんでした。やはり、生存率は低いのでしょうか? 見えないところで、生きていてくれることを期待し、次回は根元の越冬地を捜すことにしました。

オオムラサキ物語 続編 (馬場)

”オオムラサキの生存率”

第4回観察会で見つけた卵達のその後は、大半は孵化直前までなりながら孵化せず、1週間ほど経過してから大量のコバチ(正体不明のエイリアン)が羽化してきました。



鱗翅目の卵に寄生するヒメバチ・コマユバチ科の寄生蜂の一種と思われるいろいろ検索してみましたが、卵寄生の蜂に関する記載がみつからず正体不明のままですが、蝶屋の仲間内ではゼフィルス(ミドリジギミ類)の卵が寄生される事は良く知られており、添付写真からも”卵から半身を出している蜂”が確認できます。

200近い卵がほとんど寄生されていたことや、幼虫になっても蜘蛛や幼虫寄生の蜂や小鳥の捕食等を計算に入れると、無事に卵から成虫になれるのは、やはり1~2%でしょうか。

新たに確認した樹木

イヌザクラ(犬桜) バラ科 サクラ属

ウワミズザクラとよく似ていて、分かりやすい違いは花序に葉が無い点です。来春調べます。



ウワミズザクラによく似ていて異なるので「似て非なるもの」の「非(イナ)」から「イヌ」に転訛したとも思われます。「イヌ」の名がつけられた植物の名は「役に立たない」ことから「イヌ(犬)」であるという説明がなされますが、古来「犬」は狩猟や牧羊など有用な存在であったことから疑問ありという説もある。

ハリギリ(針桐) ウコギ科 ハリギリ属

別名 セン、センノキ

建築内装用つき板、家具などに利用できる有用な樹木です。



名前のとおり、樹皮には鋭い刺がありました。

ハイイヌガヤの実の疑問



ガイドブックには「果実は翌年熟し、食べられる」と記述されている。
今年受精した果実はどれ？
過去に観察した写真がありました。(2011.3.16)
←こんな感じです。

この花は？

水車小屋の近くで見つけたこの花は？



イヌトウバナ(犬塔花)

葉の形、萼に開出する長軟毛。

シソ科 トウバナ属

多年草

同じトウバナ属にはトウバナ、クルマバナがあります。

10月の月例観察会のその後

アオツツラフジの実 11.9

センブリの実 11.9

ツルリンドウの実 11.6

ウリカエデ 紅葉 11.9

ヤマモミジ 紅葉 11.9

ヒメジオン 花 11.9

ヤクシソウ 花 11.9

リュウノウギク 花 11.9

どうして葉の色が変わるの？

緑色の葉緑素は植物にとって大切な資源です。植物たちは葉緑素を再利用するため、落葉する前に葉緑素を枝、幹、根に引越させます。

そこで、もともとの葉の性質により、色々な色に変色します。

●黄色になるのは

葉の緑色がだんだん少なくなって前から持っていた黄色(カロチノイド)が目立つようになる。

●赤色になるのは

元々葉に赤い色を作るアントシアニジンを含んでいると、落葉の準備過程で葉の付け根に壁が出来てくると、葉で作った糖が葉に溜まるようになります。

太陽光によって、この糖がアントシアニジンと結びついて赤いアントシアニンに変身すると紅葉になります。日当たりによって色が違うのはこの働きによります。

●褐色になるのは

落葉の準備過程で葉の付け根に壁が出来てくると、葉で作った糖が葉に溜まるようになります。

この糖が発酵して茶色いタンニン系色素のアルコール(フロバフェン)が出来ると褐色になります。